

(要旨)

2020年10月時点で、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の治療は、支持療法、既存薬の転用、または未承認薬の人的使用等により行われている。2020年3月、重症COVID-19での免疫調節治療として、抗IL-6受容体モノクローナル抗体のトシリズマブが提案された。これは、多くのCOVID-19患者で、CAR-T細胞療法^Aに伴うサイトカイン放出症候群に類似した過剰な炎症症候群^Bが発生するためである。今回の後ろ向き観察研究で、集中治療を要する重症COVID-19患者において、標準治療(SOC)に加えてトシリズマブ治療を受けた患者20人とSOCのみを受けた13人を比較した。トシリズマブ投与から1週間後、臨床上的呼吸状態、炎症マーカー、および血管の放射線画像スコアが改善した。それに対し、SOC治療のみの患者ではこれらのパラメータは変化がなかったか、または悪化した。本研究には限界が多かったものの、1週間後に肺動脈酸素勾配とともに血管の放射線画像スコアも改善されたことから、肺血管灌流の改善を示している可能性があり、トシリズマブを投与されたCOVID-19患者が対照群に比べてより迅速に回復したのは、それが理由であった可能性がある。

^A キメラ抗原受容体発現 T 細胞療法

^B Hyperinflammatory syndrome